

神奈川大学の就職支援について



神奈川大学
就職課課長
佐藤 健司



神奈川大学について

神奈川大学は、1928年に創立され、88年の歴史の中で卒業生は21万人余にのぼる。横浜キャンパス、湘南ひらつかキャンパスを合わせ、大学7学部、大学院9研究科、附属中・高等学校を含め学生生徒数は約2万人の総合大学である。

創立者米田吉盛は「質実剛健」「積極進取」「中正堅実」を建学理念に抱え、大学の教育の中で、何よりも「人間教育」を重視した。これは、今日の「社会人基礎力」の養成にも相通じるものであるが、この伝統をさらに発展させるべく、2006年には「キャリア形成科目」を正課に取り入れ、2008年からは「海外インターンシップ」も開始した。

この正課であるキャリア教育と就職課で実施する就職支援プログラムを合わせ、MY VALUEプログラムとして、学生が主体的に活動するようキャリア支援を行っている。

U・Jターン支援

創立者米田吉盛は全国の優秀な人材に勉学の機会を与えるべく、給費生制度を設けた。全国主要都市での給費生試験制度は、戦前から実施している。

こうした伝統から、本学は全体の4割が東京都、神奈川県以外の出身者で、首都圏にある大学の中では、地方出身者の割合が高くなっている。地元志向への強まりと地方創生が掲げられる中、U・Jターンに力を入れるべく、現在15県と就職支援協定等を結んでいる。地元企業の求人、セミナー・ガイダンス情報の発信、企業情報、父母懇談会での講演など連携を深めている。

また、出身地に戻ってのインターンシップ実施希望者のための、U・Jターンインターンシップガイダンスや就職相談会も開催し、各県の就職担当者による学内での相談の機会を設けている。神奈川で学び、地元に戻って活躍する人材の育成にも努めている。

ピアサポーターによる支援

学生による学生のための支援として、ピアサポーター制度を設けて4年になる。自主的に集まった内定者が3年次生以下の後輩学生の就職相談や就職セミナーを開催するが、就職課はそのサポート役で、彼らには基本的なルールを教え、あとは見守る形を取り、何かあればアドバイスする体制である。

内定学生の自主性に任せているので、年によって支援に個性があるが、

夏休み中に前年のピアサポーター（新社会人）も参加して打ち合わせが行われる。10月から本格的に就職資料室に常駐し、卒業の間際まで後輩たちの面倒を見て、「生きた情報」を後輩たちに伝えている。

活動としては個別の就職相談のほか、内定者による座談会やUターン就職の経験談はもちろんのこと、公務員・エアラインといった業界セミナーまで、多岐にわたる。レジュメやPPの作成など企画から運営まで、全て学生たち自身で行っている。後輩への支援をすると同時に、彼ら自身の授業では得られない学びにもなっている。活動の終わりには、報告書を作成し、次年のピアサポーターに引き継がれる。

就職課の支援

就職課では、MY VALUEプログラムに沿って、多岐にわたる支援プログラムを実施しているが、学生が主体的に行動できるよう「ピアサポーター」の活動のように、何よりまず一歩を踏み出す手助けをし、そこから多くを学び取り、主体的な行動へと結び付けていくことを重視している。

自らの進路は自分で答えを出し、責任を持って進んでいけるよう支援するのが就職課の役割と考えている。